



ソクラテスの死と キリストの死

日本における講演と説教

ベルトール・クラツパート著／武田武長編

◆四六判・並製・330頁・本体3200円

西欧精神を規定した二人の刑死者

両者の相似と相違は何か。著者はここにもう一人の刑死者ボンヘツファーを導入し、キリスト教的実存の何たるかを鮮やかに浮かび上がらせる。

また、死者の魂の覚醒を論じるカルヴァンとバルトに即して、神学的死生観を倫理に接続した論考、さらに、アブラハムという信仰者像を媒介としてユダヤ教、キリスト教、イスラームの三者間対話を極限まで追求した論考など、神学の醍醐味と喜びを味わせてくれる8編。「バルト・ボンヘツファーの線」を追求してきた著者の2度の来日時に語られた言葉。



著者 1939年、宣教師の息子としてスマトラに生まれる。2004年までヴッパータール神学大学で組織神学の教授を務めた。邦訳された書『和解と希望』（小社刊）。

【目次】より

- 1 ソクラテスの死とキリストの死
——ソクラテスとキリストを巡るデイトリック・ボンヘツファー。キリスト教と非キリスト教的・異教的知恵との出会いを示す卓越した例
- 2 カルヴァン神学のアクチュアリティ
——死後もキリストの交わりの中で「靈魂」が目覚めていること
- 3 カルヴァンと旧約聖書
——今日の我々にとつてのカルヴァン神学の意味
- 4 イスラエルの神の「御名」の解釈としての三位一体
アブラハムは二つにし、かつ区別する
——ユダヤ教・キリスト教・イスラームの三者間対話の基礎づけと展望
- 6 イエスが受けたメシア的霊の洗礼
——メシア・イエスは第「聖書とユダヤ教に属する説教」これがヨハネの証しである。『見よ、神の小羊』説教「あなたたちは神の力を知らない」
- 7
- 8

9月16日発売

ローマの信徒への手紙 上巻

原口尚彰著

◆ A5判・270頁・本体6400円

修辞学的 = 書簡論的分析の成果

邦人の手になる久々のローマ書に関する本格注解

ローマの信徒への手紙は紀元57年頃、コリントに滞在する使徒パウロが、まだ訪問したことがないローマの教会へ書き送った手紙である。本書はこの手紙を、当時のディアスポラ書簡の文脈に置き直し、修辞学的 = 書簡論的な分析を施すことによって、著者と読者とのコミュニケーションの中でいかなるメッセージがやり取りされたかを精緻に解明する。上巻は、緒論および本文8章までの注解。

【著者】原口尚彰（はらぐち・たかあき）

1977年、東京大学法学部を卒業後、日本ルーテル神学大学、同神学校を経て、シカゴ・ルーテル神学校で博士号取得。明治学院大学一般教育部講師、聖和大学人文学部助教授（新約聖書学担当）、東北学院大学文学部教授（新約聖書学担当）を経て、2015年よりフェリス女学院大学国際交流学部教授。著書は『ガラテヤ人への手紙』、『信じることと知ること』、『ロゴス・エートス・パトス』、『新約聖書積義入門』、『新約聖書神学概説』、『幸いなるかな』など多数。

新教出版社のオンデマンドブックから

新規オンデマンド化

〔8月25日〕

基督教の起源

山谷省吾著／解題Ⅱ荒井献

戦後、邦人の手によってまとめられた初期キリスト教史研究の画期となった古典。堅実で厳密な学問的態度と信仰的立場とがみごとに融合した名著。

上下2巻を合本化し、オンデマンドブックとして復刊。

◆ A5判・並製・740頁・本体6800円

オンデマンド化準備中

〔10月予定〕

新約聖書解題

山谷省吾著／解題Ⅱ中野実

山谷省吾（やまや・せいじ）

1889年岡山県に生まれる。東京帝国大学卒業後、内務省勤務を経て第四高等学校、第三高等学校教授を務めた後、31年、室町教会牧師、46年、信濃町教会牧師、51年、口語訳聖書専任委員、55年、東京神学大学教授、66年、東北学院大学教授を歴任。また駒沢教会、豊島岡教会牧師も兼ねた。著書は『パウロの神学』、『パウロ書簡・私訳と解釈』全5巻など多数。82年逝去。

ロドニー・スターク著／櫻井康人訳
十字軍とイスラーム世界 神の名のもとに
 戦った人々

『キリスト教とローマ帝国』で著名な宗教社会学者が従来の十字軍像に挑戦。果たして彼らの行動を経済的・領土的野心ないし改宗主義といった動機だけで説明できるのか、また対する通説的イスラーム像は妥当なのかを再検討し、話題を呼んだ問題作。 ◆四六判・予価3600円

ヴァイクトール・フランクル著／赤坂桃子訳

ロゴセラピーのエッセンス 18の基本概念

ロゴセラピーを分かりやすく解説してほしいというアメリカ人読者の要望に応えてフランクル自身が『夜と霧』英語版に付した貴重な紹介論文。初の邦訳。また日本でロゴセラピーを実践する精神科医と臨床心理士による2つの解説を付す。牧会者必携。 ◆小B6判・予価1600円

ヴァイクター・ファーニツシユ著／焼山満里子訳

第一コリント書の神学

パウロ研究の第一人者が、「パウロの神学」を安易に語ることを戒めつつ、伝道者・「使徒」として走り抜いた彼の、第一コリント書に込めた独自の目標・特徴を手堅く綿密に検討する。 ◆四六判・予価3500円

ユルゲン・モルトマン著／福嶋 揚訳

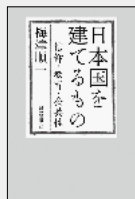
希望の倫理

64年に『希望の神学』で衝撃的デビューを果たした著者が46年後に、これまでの神学的営為の総決算とも言うべき書を書き上げた。いま真の希望のありかを指し示す21世紀の倫理。 ◆四六判・予価4500円

● 8月に出た本

日本国を建てるもの
 信仰・教育・公共性

梅津順一著



ピューリタニズム研究の第一人者が、近代日本のキリスト教、日米キリスト教大学の歴史を振り返り、日本の将来の精神的基軸を構想する力作。本多庸一、徳富蘇峰、内村鑑三、福澤諭吉などの思想家たちをキリスト教思想に何を見、どのような日本を夢見たのか。今学ぶべき日本のキリスト教大学のルーツとは。著者は青山学院院长、キリスト教学校教育同盟理事長。 ◆四六判・本体2800円

福音と世界

9月号―特集 聖書と老い

◆税込635円

寄稿者…渡辺信夫、櫻井重宣、小堀トシ子、原慶子、川又俊則、荒井献、小海光、小林昭博、宮下規久朗、金必順、高橋優子、内田樹、佐藤優、月本昭男、辻学、木原葉子、一色哲、ほか

●レリバンシー (relevancy) という言葉があります。関連性、適合性などと訳されますが、要するに重要で有意義だという意味です。逆にレリバンシーがないと言えは、その問題が我々の現実には何ら有意義な関連を持たないということです。「そんなの神学論争だ」とか「スコラ的だ」と言われる場合もほぼ同じ意味でしょう。「針の先に天使は何人座れるか」というのは、よく引かれる例です（実際にスコラ哲学でそのような議論があつたかどうかは定かでないようですが）。それでは、「死者の魂は眠っているのか、目覚めているのか」はどうでしょう。そんなことどうでもいい？ カルヴァンは宗教改革者としての最初の論文でこの問題を取り上げ、死者の魂の覚醒を熱心に論じました。当時の同僚たちでさえその出版に反対しましたが、この論文を重要視したのがカール・バルトです。彼は反ナチ教会闘争の重要な節目にもこれを大学のゼミで取り上げようとしました。なぜでしょうか。クラッパートは、『ソクラテスの死とキリストの死』に収められた一論文でそのあたりの消息を興味深く伝えています。ぜひご一読くだ

さい。古い神学論争の中にも、科学の先端研究——たとえば素粒子が何種類あるかを巨額の加速器を使って探る大プロジェクト——よりレリバンソな問題があるかもしれない（トップクォークの研究者よ、ごめんなさい）。

●2月に刊行したアメリカの詩人ホイットティアの『雪に閉ざされて』の訳者根本泉さんから嬉しいお知らせが届きました。この8月、詩人ゆかりの地エイムズベリーに招かれ、同市の市長より「重要な文学的業績ならびにホイットティアの遺産と市への貢献」が表彰されたとのこと。アメリカ人に広く親しまれている詩ですが、アジア圏の言語に全訳されたのはおそらく初めての由。

●小社が属しているキリスト教出版販売協会が7年ぶりに新人研修会を実施しました。二十数年前に新人として参加した編集者も今回は実行委員側。書店・取次・版元各社から集まった新人たちの顔を見ながら、私たちが預かっている価値ある言葉を一人でも多くの読者に届けるために、何とかこの業界の危機を乗り越え、元気で楽しく仕事をしたいと願うや切なるものがあります。

福音と世界

2016年

10

特集・聖書と贖罪

A5判・80頁・定価635円・送料70円
年間予約購読料（送料共）8460円

- 旧約聖書の贖罪思想……………小友 聡
- パウロの「贖罪論」をめぐる欧米新約学界の動向……………山口希生
- ルターの贖罪論……………鈴木 浩
- 女性神学者たちが信じる贖罪……………ソントーク・ミラ
- 贖罪論の修復的転回……………河野克也

生きるに値せぬ命があるのか——津久井やまゆり園事件を考える……………河島幸夫、關めぐみ、島しづ子、深谷美枝、水野英尚

いま、関西労伝60年からみえてくる道……………大川 祈

【新連載】現代神学の冒険

——新しい海図を求めて……………芦名定道

【連載より】

- ◆新約釈義 第一テモテ書 8……………辻 学
- ◆聖書素読 10……………金 必順
- ◆リレーエッセイ・聖書とわたし 10……………末盛千枝子
- ◆レヴィナスの時間論 19……………内田 樹
- ◆南島キリスト教史入門 24……………一色 哲
- ◆ことばの履歴書 30……………佐藤 優
- ◆詩篇の思想と信仰 139……………日本昭男